

中学生の「税についての作文」

大川教育長賞

税に込められたメッセージ

大川市立大川桐薫中学校

二年 前田 結衣

「税」。その言葉を聞いて、私が真っ先にイメージしたのは「教科書」だった。なぜなら、小学生の時から、教科書の裏表紙には、必ずこの二文が書かれていることが気になってきたからだ。それは、「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」というものである。

私は、小学一年生の時から、毎年四月には必ずこの二文を目にしてきた。しかし当初は、まだ、「税」という言葉の意味でさえ知らなかった。ただただ、「無償って書いてあるってことは、教科書はタダでもらえるんだ」と思っているくらいだった。

今、中学二年生になって、現在使用している教科書を見てみた。その裏表紙には、八年前から変わらず、同じ文字が並べられていた。改めてその文字を見ると、税のおかげで、勉強ができていくという実感がわいた。

その教科書に関わる「教育」についての税金には、どのようなものがあるのか。そこで資料を見てみると、教育や科学技術の発展に使われる税は、国の歳出の五・一パーセントを

占めており、五兆三千九百六十九億円となることがわかった。その中でも、教科書の配付や学校の援助のために使われる税は、二兆三千百二十四億円にも昇る。この額は全体の四十二・八パーセントにもなる。私はこれを知って、自分達、学生にこれだけの期待をしていただいたいに、感謝の気持ちを抱いた。それと同時に期待されている分、その使命があると思つた。だからこそ、日頃の授業を大切にし、その使命を果たせるように粘り強く勉強に励んでいかなければならないと強く感じた。

今まで、当たり前のように使っていた教科書。その一つには、私達への期待や希望が込められているとわかった。また、税という形でそのようなメッセージが伝えられていると感じた。これからは、その期待に応えられるようにより一層勉強に励み、税に対してもっとありがたみを感じていきたい。

数年前、消費税が十パーセントに引き上げられ、それまでより二パーセント分多くお金を払わなければならなくなった時、私は最初抵抗と不満があった。世間も同じように、反対意見を持つ人々が数多くいたようだ。今までより多くお金を払うことに抵抗するのは、今考えてもおかしくないことだと思ふ。

しかし、考え方を変えてみると、その二パーセント、たった二パーセントで、自分はもちろん、国民の生活が豊かになったり、救われたりすると思うと、それほどマイナスなイメージを持たなくてよいのではないかとも思つた。

今までより、もっと税を身近に感じ、それに感謝していきたい。そして、多くの人々と繋げていきたい。メッセージを込めて。税のバトンを。